

株式会社 西京銀行

2019年3月期 決算報告

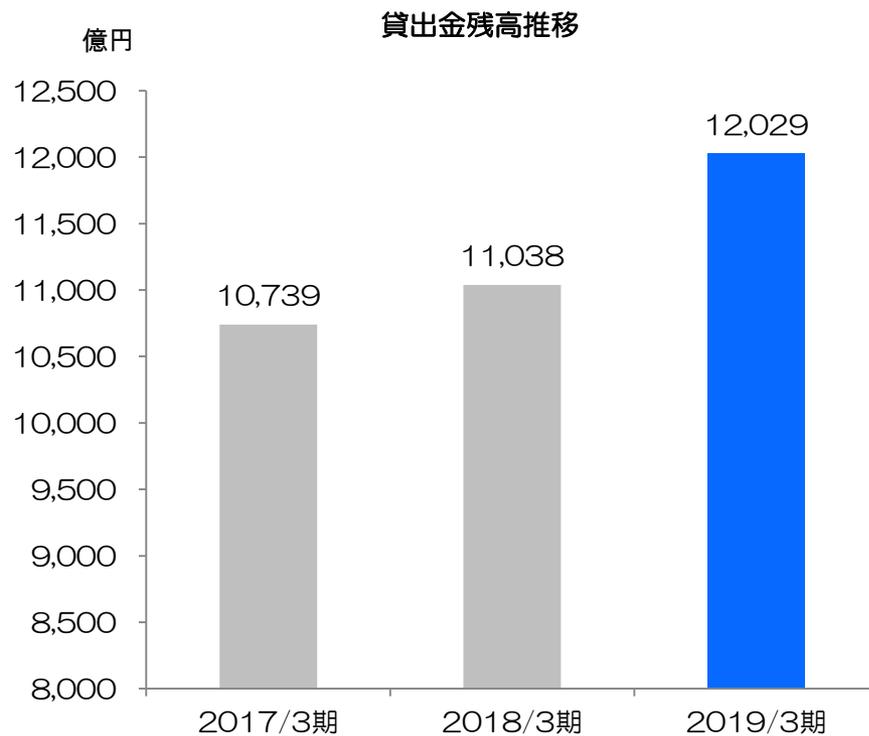
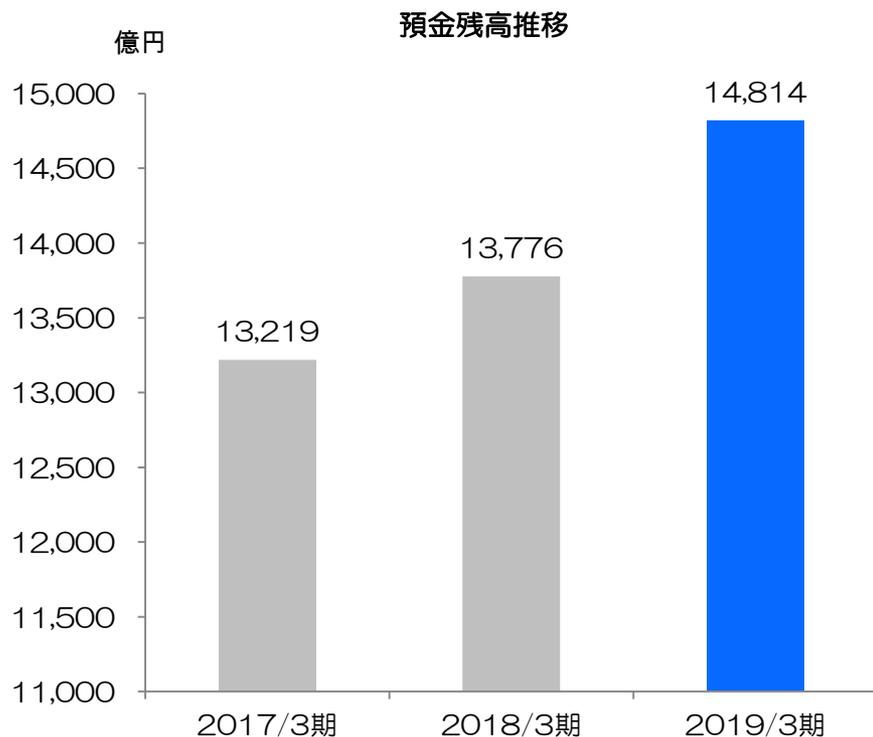


2019年3月期 業績ハイライト（単体）	……………P. 2
地方創生に向けた取組み	……………P. 10

2019年3月期 業績ハイライト（単体）

- 預金残高対前年比 **1,037億円増加** 貸出金残高対前年比 **991億円増加**
- コア業務純益（本業での利益）において **3期連続の増益決算**
※コア業務純益＝実質業務純益－国債等債券損益
- 開示債権比率は過去最も低い **1.18%**

- 預金残高は、キャンペーン定期預金がご好評いただき、対前年同期比1,037億円増加
- 貸出金残高は住宅ローンを中心に、対前年同期比991億円増加

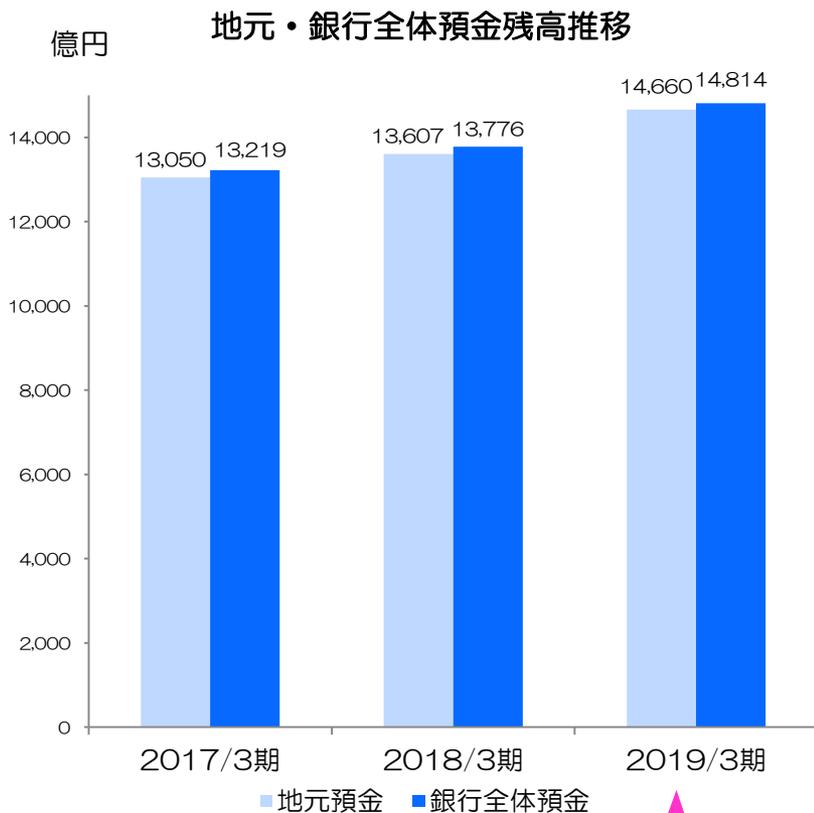


- 貸出金利息や手数料収益増加により**経常収益は増加**しているが、有価証券売却益の減少、予防的な貸倒引当金計上により**経常利益は減少**
- ただし、コア業務純益において**3期連続の増益決算**、**銀行本来の業務で得た利益は着実に増加**

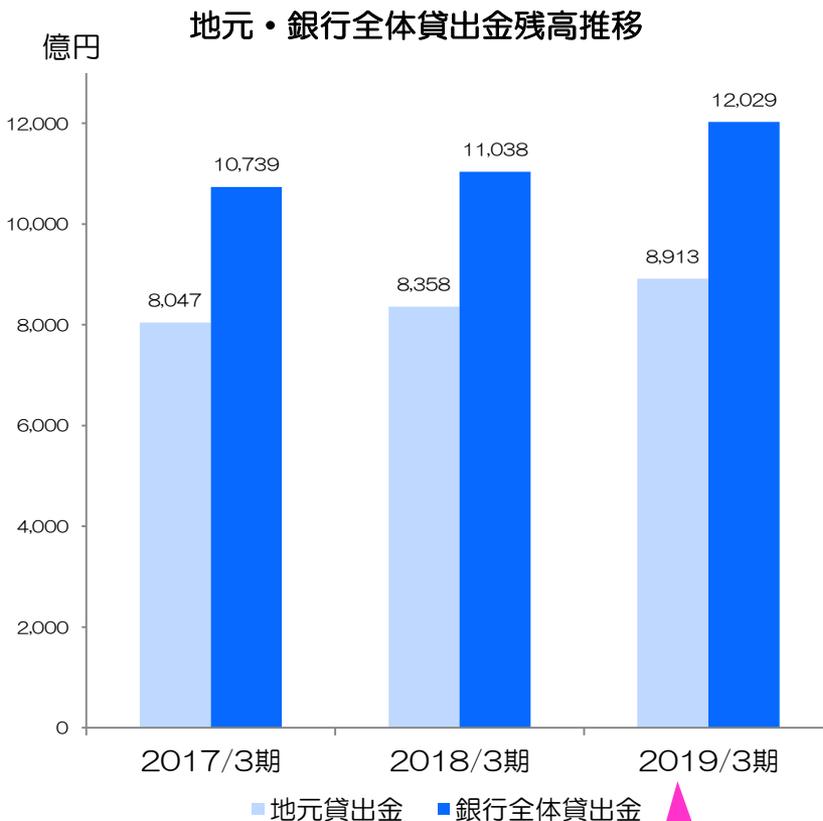
(単位:百万円)

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	前年比
経常収益	28,255	27,628	28,133	505
経常利益	6,559	6,318	5,403	▲915
当期純利益	4,018	4,109	3,178	▲931
コア業務純益	4,243	5,573	6,445	871

- 地域の皆さまからお預かりした大切な預金を、資金を必要とされている地域の事業者さまや個人のお客さまに、借入金としてお使い頂く『資金の地域内循環』を推進

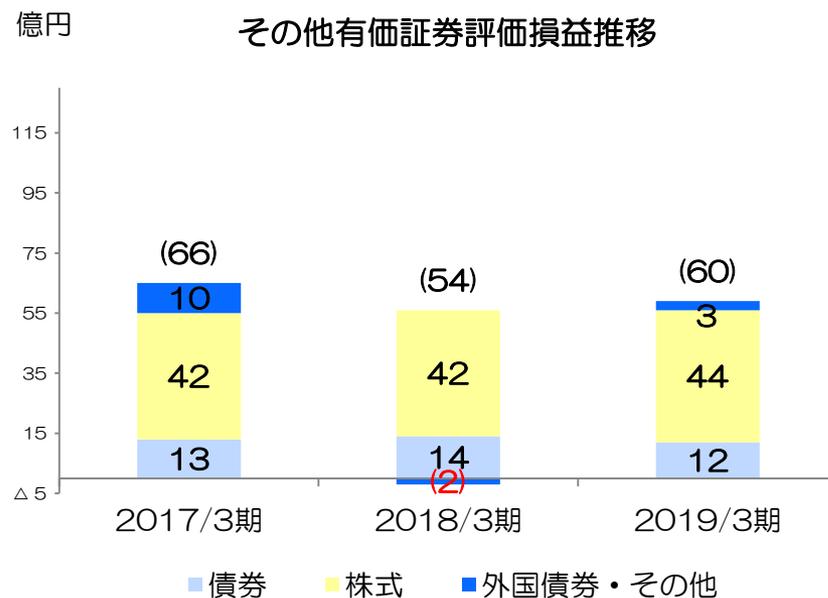
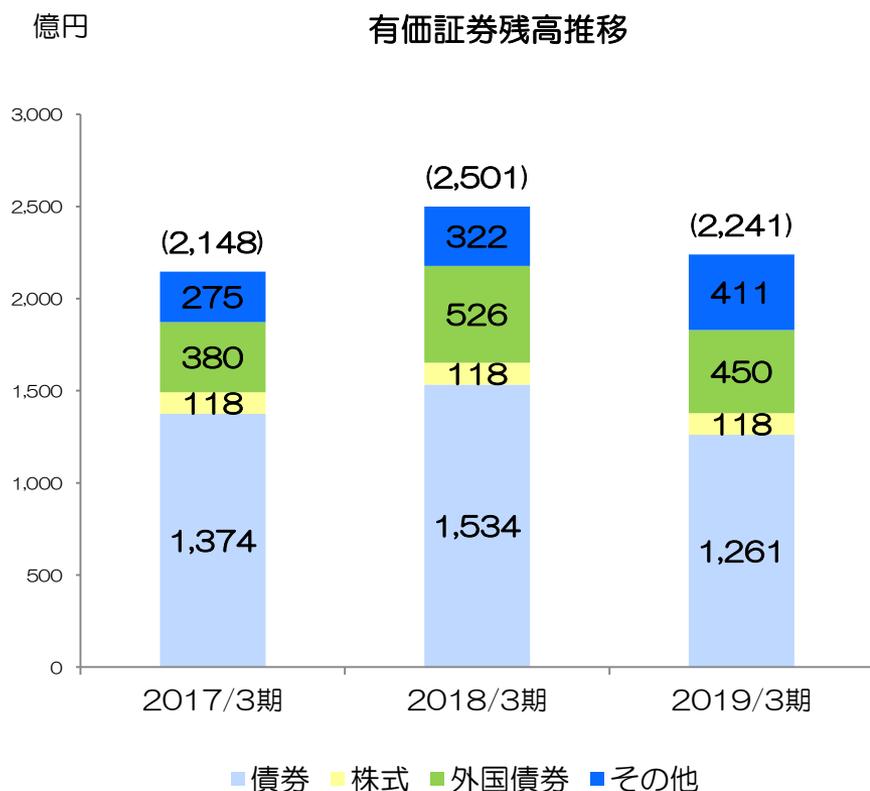


地元割合
98.9%



地元割合
74.0%

- 有価証券運用は債券を中心に安全性を重視する一方、修正デュレーションは金利リスクに備え短期化に努めており、4年を下回る地銀最低水準を維持
- 上記の運用方針により、その他有価証券評価損益は経常利益1年分を維持



修正デュレーション推移（国内債券）

2017/3期	2018/3期	2019/3期
3.287年	3.903年	3.518年

- 厳格な資産査定に基づく早期の対応により、開示債権比率及び開示債権額は減少
- 開示債権比率は、対前年同期比0.11ポイント減少し、**過去最も低い1.18%**

金融再生法基準での開示債権比率

2017/3期 1.44% → 2018/3期 1.29% → 2019/3期 1.18%

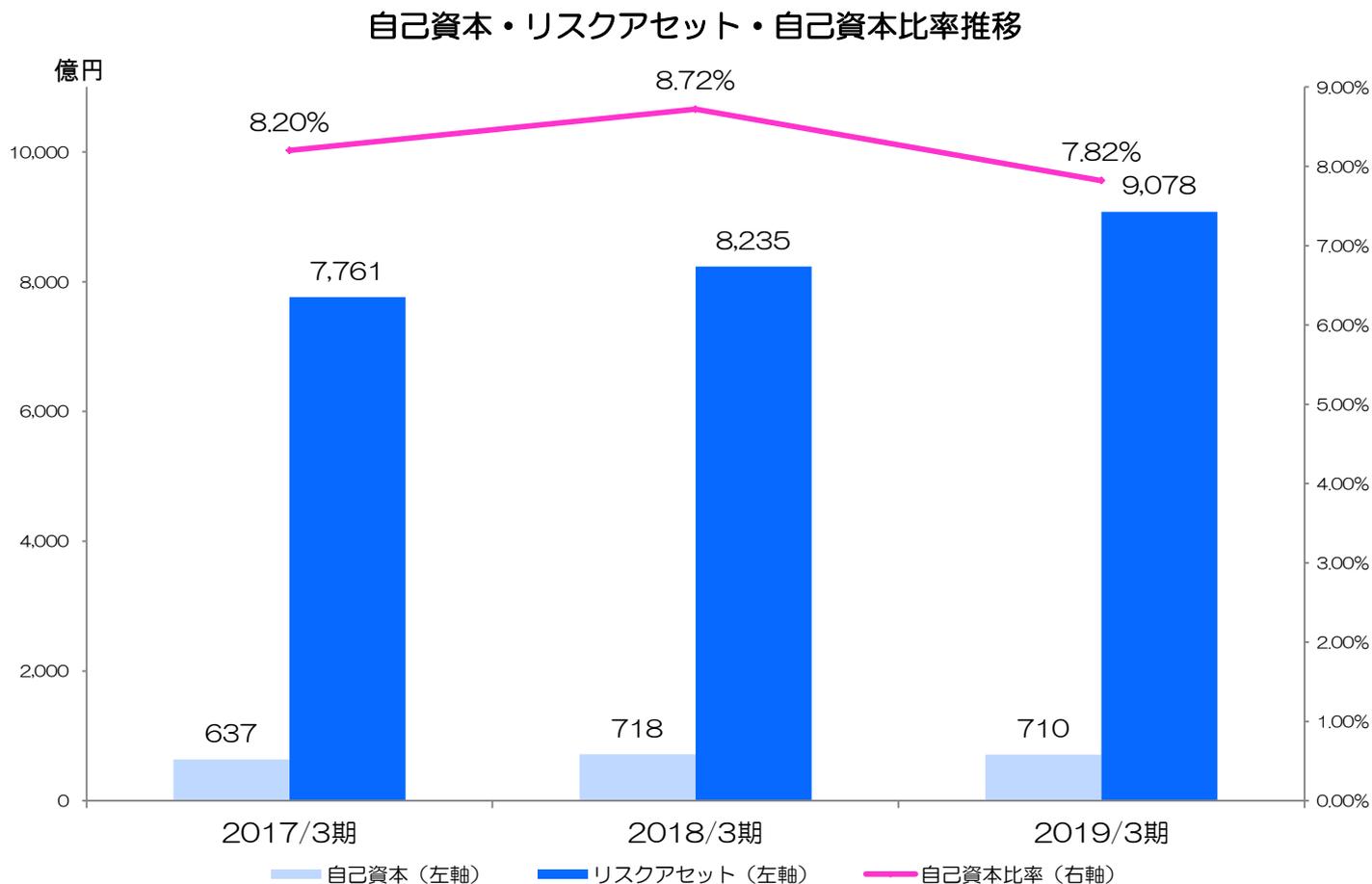
部分直接償却前開示債権比率

2017/3期 1.73% → 2018/3期 1.59% → 2019/3期 1.47%

開示債権額

2017/3期 157億円 → 2018/3期 143億円 → 2019/3期 142億円

- 地元を中心とした貸出金の増加に伴い、自己資本比率は0.9ポイント低下したが、国内基準(規制値4%)を上回る、7.82%

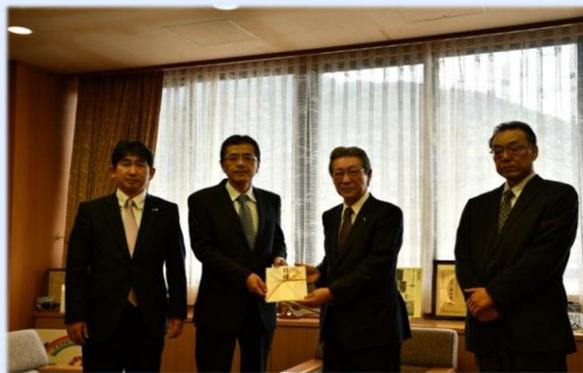


地方創生に向けた取組み

～ 一人でも多くのお客さまに「さすが西京」のサービスを～

地域の復興支援

- 周防大島町への寄付金の贈呈
 - 大島大橋の損傷に伴う被害の復興支援を目的に、お預入れ総額に応じた寄付金付定期預金（お預入れ総額の0.01%）を発売
 - 多くのお客さまにご賛同いただき、総額1,000万円を周防大島町へ寄付



～寄付金贈呈式～
（周防大島町役場にて開催）



地域性に寄り添った店舗展開

- 移動店舗車「ACTシャトル号」運行開始
 - 店舗統廃合等により生じた空白エリア、医療機関・高齢者入居施設を巡回



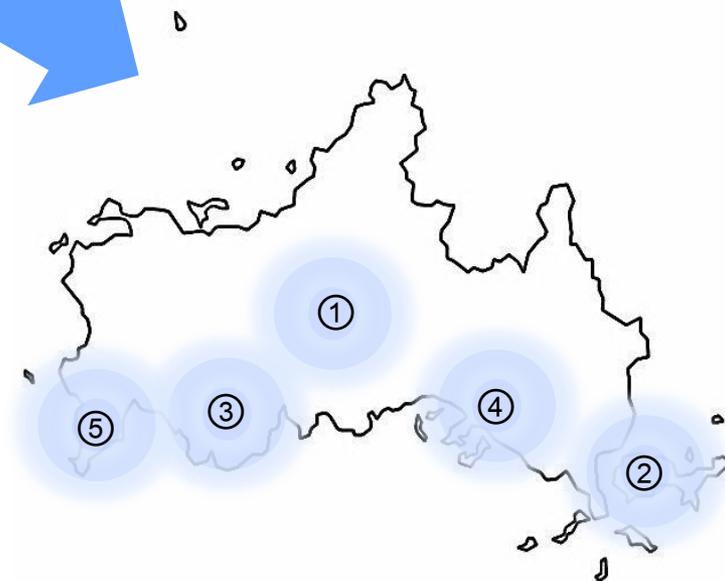
より便利に、より快適な店舗へ

●山口県内の幅広い地域での店舗リニューアル

- お客さまとの接点を拡大するため、県内の店舗改革を推進中
- 2009年以降、23店舗をリニューアル

昨年度の店舗改革実績

①湯田支店 (2018年10月9日)	駐車場拡大、全自動貸金庫設置
②ACTシャトル号 (2018年12月3日)	機動的な移動店舗車
③恩田支店 (2019年1月15日)	駐車場拡大、全自動貸金庫設置
④虹ヶ浜支店 (2019年2月18日)	駐車場拡大、木造建築のエコ店舗
⑤幡生支店 (2019年3月11日)	当行初の銀証共同店舗



店舗改革のコンセプト

●ゆっくりと余裕をもって相談できる店舗

ー相談ブースや多目的トイレを設置し、より快適なコミュニケーションの空間へ



広くて停めやすい駐車場



お客さまロビー面積の拡大

●より便利で身近な店舗

ー下関市にある大型ショッピングモール「ゆめモール下関」の敷地内にオープン

ーお客さまの多様な資産運用ニーズにワンストップで対応



藍澤証券との銀証共同店舗



銀行と証券のサービスを集約

専門のサポート室新設

●事業承継サポート室

- 事業承継時の課題をスピーディーに解決
- 専門家や外部機関と連携し、質の高いコンサルティングサービスを提供
- セミナーの開催、後継者の育成サポート等を実施

山口県の後継者不在率は全国第2位！
全国後継者不在率（2017年度）

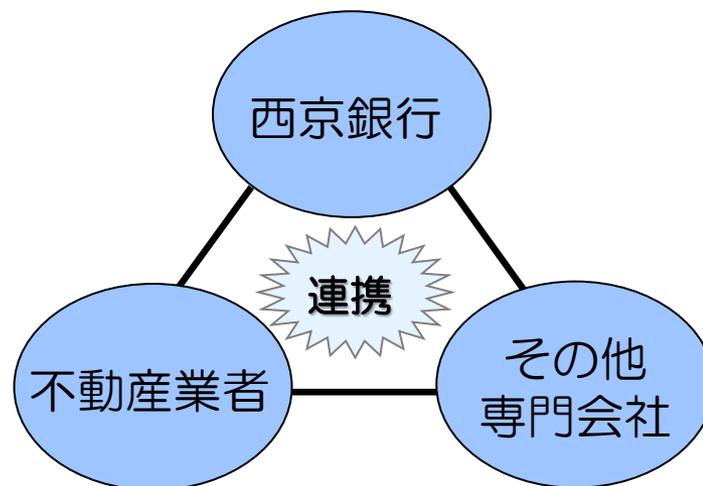
順位	都道府県	不在率
1	沖縄県	86.2%
2	山口県	75.7%
3	広島県	74.7%
4	北海道	74.0%
5	鳥取県	73.2%

出典：帝国データバンク山口支店
「2017年山口県後継者問題に関する企業の実態調査」



●ソリューションサポート室

- アパート経営を行われているお客様が抱えるさまざまな経営課題に対し、専門スタッフが幅広くサポート
- 住宅関連オーナーへのコンサルティング
- 不動産情報等によるビジネスマッチング
- その他アパート経営に関するご相談対応



成長分野におけるサポート

● 『さいきょうぶちうまコレクション2019in台湾』開催

- 台湾での販路開拓・商品の定番化を目的とし、
- 商談会では、22社の現地企業との商談をサポート
- 物産展は、商品のPR・販売等を実施
- 参加企業：商談会5社 物産展4社



高雄市最大の漢神百貨店にて開催

● 『DISCOVER YAMAGUCHI』の開催

- 企業経営者と留学生の就職マッチング
- グループディスカッションによる交流会
- 累計参加数：企業88社、留学生395名
- 実績：留学生6名の県内就職が実現



- 地域経済の健全な発展に貢献するため「地方創生推進委員会」を中心とした推進体制を整備
- きめ細かい経営サポートにより、**全取引先数※は昨年より1.8%増加** (※取引先…事業所融資先)
- 新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合は83.1%と、積極的に対応

ベンチ
マーク

●全取引先数と地域の取引数の推移

▶全取引先数

2018年 3月末	2019年 3月末	前年 同期比
18,120先	18,452先	+1.8%

▶地域（山口県）の取引先数

2018年 3月末	2019年 3月末	前年 同期比
11,874先	11,811先	▲0.5%

ベンチ
マーク

●担保・保証に依存しない融資の対応状況

(2019年3月末)

▶地元中小企業と信先のうち、無担保融資の割合

無担保融資先数	無担保融資残高
78.4%	43.5%

▶地元中小企業と信先のうち、 根抵当権を設定していない与信先の割合

根抵当権未設定割合
80.0%

▶中小企業向け融資のうち、信用保証協会保証 付き融資額の割合、100%保証付き融資額の割合

信用保証協会保証付 き融資残高	100%保証付き 融資残高
12.2%	9.5%

ベンチ
マーク

●経営者保証に関するガイドラインの対応状況

経営者保証に関するガイドラインとは、

中小企業の経営者等の個人保証における合理的な保証契約の在り方等を示すとともに、主たる債務の整理局面における保証債務の整理を公正かつ迅速に行うための準則を定めたものです。

(2018年度)

	実績
新規融資に占める経営者保証に 依存しない融資の割合	83.1%
- 新規で融資した件数	6177件
- 新規に無保証で融資した件数	5134件
既存保証契約を解除・変更(減額)した 件数	166件
保証債務整理の成立件数	0件

*信用保証協会等保証付融資を除く

ACT SAIKYO BADMINTON TEAM

●S/J LEAGUE 2018山口大会の開催

- ー3年連続で山口県での開催が実現 来客数：今回 約1,700名（過去累計：約6,000名）
- ーオープニング演出やミニライブなど、スポーツエンターテインメントとして競技の普及・振興に貢献
- ー地域企業の参加、交流人口の拡大、来県者増加による経済波及効果に期待



●『ACTアカデミー』始動

- ーACTアリーナを拠点に、2019年4月から本格始動
- ーオリンピック出場経験もある信頼のコーチ陣
- ー中学生を対象に、山口県から日本トップや世界を目指す次世代アスリートを育成



チーフコーチ
森 かおり

経歴：元三洋電機バドミントン部
戦績：2004年アテネオリンピック
女子シングルス出場